

春秋彩

Shunjusai

vol.51

熊本県立大学広報誌

2019
Autumn



CONTENTS

学長あいさつ	2
特集 県立大生の海外留学	3
後援会だより	7
地域連携	8
研究活動紹介	9
国際交流	10
活躍する卒業生	11
大学の動き	12
生き生き元気種	14
おすすめの一冊・人事情報・未来基金	15
熊本県立大学アーカイブス	16

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

 **熊本県立大学**
Prefectural University of Kumamoto

私憤の罣

知識人が陥りやすいものとして、私憤の罣というものがある。私憤にまかせて他者にものを言いたくなる、押さえ切れない感情のことである。知識人は往々にして自信があるから、自分の考えをストレートに表明することへの違和感を持ちにくい。知識人は自らの使命感として、過ちを看過できない、できれば正したいと思うきらいがあるから、関心事については自説をぶちたがる。配慮したつもりの発言でも、自分の考えを正しいものと信じていれば、言動は激しくなりがちで、見解の異なる他者にとっては否定的であり、攻撃的さえあり得る。攻撃された者が知識人であれば、黙ることはしない。反撃が起こり、泥沼となることもある。今日のIT社会では、ひかえめを美德としない人々、とくに政治家やマスコミ関係者、評論家などのあいだで、そのような事例が折々に見られる。かつては激しい文学論争の時代もあったが、そこには罪も害もなかった。近年は当人や周囲の不利益につながるような諍いが目につく。

人間は、どこまでも不完全な生き物であり、生来の欠陥を完全に修復することはできない。機械が進化することく完全体に向けた改善を繰り返すような生き方を己れに科しはしない。自らの欠陥を補完しようと努力することはあるし、その人なりの向上心もあるが、最終的な目標値などありはしない。人間の完全体は、もはや人間的でないからである。有限の一生のなかで無限の前進を続けることしかできないのが人間である。

つまり、私憤の罣は、人間が不完全な生き物である限り、許されるべき感情である。要は、知識人を自認するのであれば、私憤はそのまま育てず、冷静な理性にくるんでは言葉の創造力を駆使してどれだけ美しく語るか、である。それが知識人の証しというものだろう。



熊本県立大学学長

半藤 英明

Hando Hideaki

県立大生の海外留学

→「世界」に学び、さらなる成長を

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」をモットーに掲げており、学生交流協定を締結している2つの大学やその他の協定校、また協定校以外も含めると毎年100人程度の学生が留学や研修で海外にチャレンジしています。

4ページからは海外で貴重な経験を得て帰国した学生にインタビューしました。

これまでの本学からの留学者実績

学生交流協定による留学



大韓民国

祥明大学校との交流

平成元年10月 姉妹提携締結
平成9年2月 学生交流協定を締結

現在の交流状況

短期研修団の受入と派遣
1年間の交換留学生の受入や派遣
日本語教育課程実習生の派遣



アメリカ合衆国

モンタナ州立大学ピリングス校との交流

平成9年9月 学生交流協定を締結
平成10年5月 学生交流に関する
実施協定を締結

現在の交流状況

約4週間の短期研修生の派遣
約9ヶ月間の交換留学生の受入や派遣

	H26	H27	H28	H29	H30
祥明大学校 短期研修	7	6	4	7	9
祥明大学校 交換留学	1	3	1	2	1
ピリングス校 短期研修	5	0	3	7	10
ピリングス校 交換留学	2	0	2	2	2
その他の協定校での 学術セミナー等	29	30	41	31	27
協定校以外の 語学留学等	83	52	73	54	69
留学者総数	127	91	124	103	118

※後援会に申請があったものを集計

◎留学相談

上記の2校については学生支援課で相談を受け付けている他、留学制度や奨学金に関する説明会を実施しています。また各学部の教員もアメリカやヨーロッパ、アジアなど世界各国への留学経験等があり、オフィスアワーを利用した相談を受け付けています。

◎危機管理への対応

本学では日本エマージェンシーアシスタンス㈱と提携し、学生の海外における事件・事故発生時の安全(安否)確認の実施、海外医療アシスタンスの提供、24時間365日対応の相談対応など、渡航中のさまざまなトラブルに対し、アシスタンスサービスが受けられる体制を整えています。



祥明大専校交換留学生 福島 莉沙子さん
総合管理学部

留 学 先

韓国 祥明大専校

留 学 期 間

1年間

かかった費用と奨学金

貯蓄していた50万円と奨学金7万円/月。学費は交換留学のため新たには発生せず。



寮からキャンパスまでは歩いて1分!



留学中に訪問した「冬ソナ」のロケ地南怡島(ナミソン)

自分で考えて動き、積極的に発言

どうして留学しようと思いましたか？

元々K-POPなどに興味があり、大学1年生から韓国語の学習を始めました。勉強していくうちに韓国語の実力をもっと上げたい、韓国で生活してみたいという気持ちが大きくなり、留学することを決意しました。

いつごろ留学先を決めましたか？

「3年生までに単位を全部取ってから留学に行こう」と2年生の時には決めていたと思います。

留学先での生活はどんな感じでしたか？一日のスケジュールとかあれば教えてください

午前と午後に授業を1つずつ入れ、夕方は予習復習していました。昼食と夕食は学科の友達と学校周辺の食堂などで食べていました。たまに飲み会にも行っていました。

祥明大専校ではどんな授業を受けていましたか？

通訳の授業や日韓の文学比較、外国人向けの韓国語の授業などを取っていました。

授業はすべて韓国語で、課題も多く、中間試験と期末試験があります。

祥明大専校には短期研修も参加されていますが、それとの違いはありましたか？

かなり違いました。短期研修では韓国の学生たちと旅行をしているような感じで自らアクションを起こしたり、意見を言う機会などはありませんでした。留学では、当然のことですが自分で考えて動かなければならないですし、積極的に意見も言わなければならない場面も多かったです。

留学しての楽しい思い出は何ですか？

運転免許取得と学園祭です。韓国は運転が荒いことで有名ですが、そんな中で必死にハンドル握りしめて運転したことは今となってはいい思い出です。学園祭では、有名な歌手の公演があり、いつもテレビで見る人を間近で見ることができてとても楽しかったです。

留学前に、これは日本で勉強しておいたり、習得しておいたほうがよかったと思ったことはありますか？

韓国語能力試験は受けておくといろんなことで証明になるので取っておくといいいと思います。あとは、短期研修やホームステイなど積極的に参加して、韓国の文化や生活に少しでも適応できるようにしておくといいいと思います。

留学を経験して得たものや気づいたことは？

韓国は人と人とのつながりをとても大切にする習慣があると生活しながら感じました。そういった環境の中で1年間住んでいたのも、以前よりも人とよく会ったり、コミュニケーションをよくとるようになったと思います。

留学経験を活かして今後はどういった進路を目指しますか？

留学から戻ってきて、語学力を生かしたいと思っているので将来的には観光系や航空関係の仕事につけたらいいなと思っています。

後輩へのアドバイスを！

卒業が遅れたり、就活に影響するからといった理由で留学に行くか悩んでいる方も多いと思いますが、交換留学は二度とない機会です。少しでも行きたいという気持ちがありましたら、ぜひ挑戦してみてください！



モンタナ州立大学ピリングス校 (MSUB) 交換留学生
文学部英語英米文学科 立山 佳奈さん

留 学 先

米国 モンタナ州立大学ピリングス校

留 学 期 間

約9ヶ月間(2セメスター)

かかった費用と奨学金

寮費\$2,500と食費\$1,700(1セメスター)、航空券約27万円
学費は交換留学のため新たには発生せず。
日本学生支援機構と県立大学の奨学金を利用



履修していた時の時間割



留学直後に行ったイエローストーン国立公園でのキャンプ時の写真

学んだのは、問題解決力とチャレンジ精神

どうして留学しようと思いましたか？

高校生のころに一度モンタナ州に行ったことがあったのですが、自然や人々の温かさに触れ、熊本県立大学に入学した際にはいつかもう一度モンタナに行きたいと思っていたからです。また、アメリカの大学で実際に授業を受けるという貴重な体験を試みたかったからです。

いつごろ留学先を決めましたか？

入学当初からこの交換留学プログラムに興味はありましたが、本格的にチャレンジしようと決意したのは、3年次になってからです。

留学先の生活はどんな感じでしたか？

午前中の授業に行った後、カフェテリアで食事を取り、午後の授業に行くという形で学校生活を送っていました。夕食後や週末は課題をこなしたり友人と遊んだりしていました。

モンタナ州ピリングス校ではどんな授業を受けていましたか？

留学が始まったばかりの秋セメスターでは、まず生活に慣れるために、英語の授業や、コミュニケーションの授業、また他の交換留学生たちと同じ授業などを履修していました。春セメスターでは、専門的な言語学の授業や、スピーキングの授業も受講していました。

留学しての楽しい思い出は何ですか？

いろいろな国の学生たちとの交流です。世界各国から留学生が来ているので、留学生同士の交流がたくさんありました。休みの日や学校終わりに遊びに行ったり、一緒に旅行に行ったりと楽しい思い出がたくさんできました。

滞在中に訪問した場所で印象に残ったところはありますか？

冬休み期間中に高校時代の友人がいるサウスカロライナ州を訪れたのですが、北にあるモンタナとは全く違った街並みや、様々な人種がいたことが印象に残りました。同じアメリカでも色々なところがあるなと実感しました。

留学前に、これは日本で勉強しておいたり、習得しておいたほうがよかったと思ったことはありますか？

英語の勉強というよりも、自分の意見を発言することを、授業内や日ごろから意識していればよかったかなと思います。アメリカの授業は学生主体の授業なので、発言ができれば、もっと楽しく授業に参加できたと思います。

留学を経験して得たものや気づいたことは？

問題解決力とチャレンジ精神です。自分で考えて自ら行動を起こすことの大切さを学びました。また、行動力もついたと思います。

留学経験を活かして今後はどういった進路を目指しますか？

来年3月の卒業後は空港で働く予定なので、留学生活で身につけた英語力・コミュニケーション力を武器に様々な国籍の方を相手に、頑張りたいと思っています。

後輩へのアドバイスを！

私には、留学を諦めた時期もありましたが、あの時チャレンジして、MSUBで学ぶ機会を頂けて本当に良かったと思っています。留学を目指している人も、迷っている人も、まずはぜひチャレンジしてもらいたいです！



トビタテ！留学 JAPAN
派遣留学生
文学部英語英米文学科

大関 彩香さん

留 学 先

オーストラリア・香港

留 学 期 間

1年5ヶ月間

かかった費用と奨学金

授業料、航空券代、生活費で325万円ほど。トビタテ！留学JAPANの奨学金制度を活用してほとんどの費用を賄えました



シドニーシティからバスで行けるブロンテビーチ



留学中一番印象的だった Valley of the Winds

いつか、日本の外で働くために

どうして留学しようと思いましたか？

世界のグローバル化が進む昨今、いつか日本の外で働いてみたい、という夢を叶えるために、世界共通語である英語の運用能力を高めたかったのと、日本の外での働き方や生活の仕方といった価値観の違いを自分の中に落とし込みたかったのが理由です。

現地ではどんな授業を受けていましたか？

Certificate IV in International Trade と Diploma of International Business という国際ビジネスを専攻していました。マーケティング、ホスピタリティマネジメント、会計や税金、貿易に関する法律や歴史など、幅広いビジネスの知識を学びました。

私費留学も経験されていますが、それとの違いはありましたか？

私費留学は、現地で働きながら多様な人種の人たちと時間を共にし、会話を中心に活きた英語を学ぶことが目的でした。今回は奨学金を頂きながら、学生として国際ビジネスを学ぶにあたってレポートを書いたり文献を読んだりしていました。アカデミックな英語やビジネス英語に触れる機会が多くとても勉強になりました。

留学しての楽しい思い出は何ですか？

ルームメイトと過ごした時間ですね。国が違えば遊び方も違うみたいで。お互いの国の料理を振舞いあったり、近くの公園で地べたに座りながら夜中まで話し込んだり、ホームパーティで音楽を大音量で流しながら一晩踊り明かしたり、日本だったらできないだろうなという経験を友人とともにできたのが、楽しくいい刺激でした。

滞在中に訪問した場所で印象に残ったところはありますか？

オーストラリアの Valley of The Winds という場所です。火星のような異世界感があり、土は赤く、過去に地殻変動で隆起して形成された地形はまさに息を呑む光景でした。その雄大な自然の中で大袈裟でもなく不思議と世界の広さと1人の人間としての小ささを実感し、自然と涙があふれてきました。

留学前に、これは日本で勉強しておいたり、習得しておいたほうがよかったと思ったことはありますか？

やっぱり語学力ですね。私自身英語は大丈夫でしたが、香港の留学の際は英語が思うように通じず、広東語が流暢に話せなかったため生活やインターンシップに苦労しました。語学の基礎は日本でも積むことができるので現地に行ってから語学スタートではなく、現地に着いたら話せるという状態の方がより良い留学生活スタートが切れると思います。

留学経験を活かして今後はどういった進路を目指しますか？

今回の留学で培った語学力とインターンシップの経験から、楽しさに魅せられてもっと深く学びたいと思えるようになったマーケティングに進んで行きたいと思っています。具体的には、日本の産物や旬なもの、海外に需要がありそうなものなどを外国語で発信するウェブマーケターの分野です。

後輩へのアドバイスを！

私は2年半の留学で同級生よりも就職が遅れていますが、それを不利に感じたことはあまりありません。何故ならこれから自分の人生で一生活きていくであろう価値観に、この海外での2年半で触れることができたからです。もし留学したい・やりたいことがあると思っているのなら、それに迷わず挑戦してほしいと思います。

◎教員への留学相談(オフィスアワーの時間帯に相談受付中)

国名	文学部 環境共生学部 総合管理学部
 アメリカ	村尾治彦 吉井誠 原紘子 吉田希依 堤裕昭 南久則 青木朋子 モロージェフリー ボーフェボール 小泉和重 河西卓弥 中尾富士子
 カナダ	原紘子 ボーフェボール 石橋賢
 イギリス	難波美和子 レイヴィンリチャード 虹林慶 野々宮鮎美 松添直隆 宮園博光
 フランス	砂野幸稔 佐藤雄一郎
 ドイツ	森美智代 田畑嘉洋
 中国	山田俊 張代洲 上拂耕生
 台湾	小林淳
 韓国	馬場良二 崔文姫 堤裕昭 鄭一止 黄在南
 オーストラリア	進藤三雄 飯村伊智郎
 ニュージーランド	進藤三雄
 タイ	レイヴィンリチャード 堤裕昭 高埜健 中尾富士子
 インドネシア	石橋康弘 高埜健
 マレーシア  シンガポール  フィリピン	高埜健
 ブラジル	馬場良二

就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

後援会だより

後援会では、大学と連携し、学生のキャリア・就職意識の啓発、職業選択、社会人としての人格形成等に有効な就職活動支援を行っています。

その一貫として、3月14日に3年次の学部生を対象に、県内企業を中心とした50社による合同セミナー開催に対する支援を行い、約180名の学生が参加しました。

また、平成28年度から3年次の学部生を対象に「就職・進学写真代の助成事業」を行っています。

この他にも後援会では、実り多い学生生活のために様々な支援を行っていますので、是非ご活用ください。

《就職対策事業》

- 公務員試験対策講座、就職活動実践講座等の支援及び、資格取得に関する受講料等の一部助成や資格を取得した者への助成 他
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・スチューデントアドバイザー配置支援、福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成 他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催サマーキャンプ助成、全国大会等出場助成 他
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(学食メニュー充実) 他



- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インゼミ大会への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

地域連携

公開講演会「令和時代の万葉集」を開催しました！

日本古典文学に詳しい九州共立大学の奥田俊博学長を講師にお招きし、新元号「令和」にちなんだ公開講演会「令和時代の万葉集」を7月18日に開催しました。

ご息女の名前の由来などを交えて、万葉集各巻の構成や相聞・挽歌・雑歌の意味をはじめ、「令和」の出典である万葉集巻五の「梅花の歌三十二首」の序文の解説、三十二首の意味や各歌のつながりなどをわかり易くお話いただきました。

受講者は、万葉の世界に思いを馳せながら聞き入っていました。



自治体職員&まちづくり関係者向け講座 「空き家問題とは何か？～大学と取り組む空き家対策～」を開催しました！



各自治体で課題となっている「空き家問題」について、7月15日にCPDプログラムを開催しました。

最初に、総合管理学部上拂教授から、空き家問題の実態や空き家対策法等の解説、関係市町村条例の説明がありました。

次に、環境共生学部佐藤准教授から、空き家実態調査の手法、「いえの手帳」作成、空き家解体イベントなど学生と一緒に取り組んできた様々な事例について説明がありました。

学生が企画したグループワークにも、受講者が熱心に取り組んでいました。

仮設住宅の廃材を活かすベンチ作成

環境共生学部居住環境学科の佐藤哲准教授の研究室4年生4名が、玉名市の市民団体の依頼を受け、休憩用のベンチを4脚作成しました。

材料の木材には、熊本地震の仮設住宅を解体した時に出る県産材と同じ太さの木材を使い、今後の課題である廃材の有効活用策として取り組みました。その他廃材を使った家具作りにも取り組んでいます。

完成したベンチは、金栗四三ゆかりの玉名市の「いだてん」大河ドラマ館に設置されました。



「黒人女性文学」の枠組みを超えて

—20世紀アメリカ文学作品の比較研究—

2019年8月5日、アフリカ系アメリカ人女性として初めてノーベル文学賞を受賞した作家、トニ・モリスンが、88歳でこの世を去りました。本国アメリカに限らず、ここ日本でも彼女の死を悼む声を耳にします。今後しばらくは多くの追悼特集が組まれることでしょう。

常識を覆す「文学の力」

私がトニ・モリスンの作品に出会ったのは大学三年生の時です。授業で彼女の代表作『ピラヴィド』を読みました。奴隷として生きるよりも死んだ方がよい、と、愛する我が子を自ら危める奴隷の母親を描いた本作品に触れ、難解な英語で十分な理解ができないにも関わらず、それまでに出会ったことのない、何か得体の知れないものを目の前に突き付けられるような、大きな衝撃を受けたことを覚えています。読みたくないのに読まずにはいられない、そんな状態だったのだと思います。アメリカ南部の空気を肌で感じたい、と、母校が提携していたジョージア大学への交換留学も経験しました。この度の訃報を受け、モリスン本人を一目も見れないままだったことが心残りとなってしまいました。

大学院に進学後、モリスン作品にじっくりと向き合う中で、従来の批評が「黒人女性」の文学であることを強調しすぎている気がしてきました。もちろん、作者の立場や目標から考えると当然の事なのですが、現代を生きる日本人女性としてモリスン文学にアプローチしたい、との思いもあり、「人種」というよりも主に「ジェンダー」の観点から、作品に取り組んできました。優れた文学作品は、我々が当たり前だと思っている常識を覆す力を秘めている、そう考えています。博士論文では、モリスンを黒人文学の枠組みではなく、もっと広い視座からとらえたい、と、ヴァージニア・ウルフとウィ

研究活動紹介

講師 吉田希依
文学部 英語英米文学科

リアム・フォークナーとの比較研究も試みました。

モリスンの訃報を受けて約一月半後、福岡の書店で一般の方々を対象に講演をする機会をいただきました。モリスンのデビュー作『青い目がほしい』の読書会も兼ねており、何度も何度も読んだ作品でしたが、再び新鮮な気持ちで読み返すことができました。今後は特に、フォークナーとの比較研究を進めていくなかで、「女性」文学としての側面に注目したいと考えています。学生の皆さんも、自らの存在を根底から揺さぶられるような、素晴らしい作品に出会えることを願っています。



プロフィール

九州大学大学院人文科学府博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。平成30年4月より本学勤務。



講演「トニ・モリスンとは誰か」



講演の行われた「本のあるところajiro」にて

さまざまな国の学生との交流が、
県立大生のグローバルな視点を育みます

国際交流

開南大学との日台日本語研究交流会

8月9日に、MOUを締結している台湾の開南大学と日台日本語研究交流会を実施しました。開南大学は日本との国際交流に力を入れており、宮崎大学、島根大学などとも交流していますが、今回は従来の日本語教育を中心とした交流に加え、学術上の交流を実施しました。日本側からは本学の院生と研究生に加え、大学院修了者の田中利砂子南九州短期大学講師、西村るり八代看護学校講師の計5名がさまざまな日本語のテーマについて発表し、台湾側の研究者と議論を深めました。

その後には半藤学長が梁榮輝校長(学長)を表敬訪問し、今後も両校の友好を深めていくことを確認しました。



総合管理学部(上拂ゼミ)海外研修(深圳・香港)

8月下旬、深圳・香港にて海外研修を行いました。世界的な情報産業の集積地である深圳の電子街を見学したり、深圳大学、香港大学、孫文記念館などを訪問しました。「香港は大丈夫？」と思うかもしれませんが、デモが予想される区域に近づかなければ、観光地・市街中心部は安全でした。深圳から香港に移動中、デモの影響で列車がストップしましたが、親切な地元の香港人学生に助けられました。非常時の外国人旅行者の立場を痛感しつつ、香港での研修を無事に終えました。



韓国・祥明大^{サンミョン}学校より研修団が来学

6月24日～7月1日の8日間、韓国の祥明大^{サンミョン}学校より短期研修団の学生8名が本学を訪れました。

研修団の学生らは、日本語、浴衣の着付、生け花、茶道、箏の演奏など、本学学生の手ほどきを受けながら、様々な日本文化を学習・体験したほか、月出小学校の児童や、国際倶楽部の学生との交流なども楽しみました。

また、研修の最終日には、学生らが商店街などに自ら足を運んで発見した日韓の文化の違いを動画にまとめ、日本語によるユニークなプレゼンテーションを行い会場を沸かせていました。



海外危機管理オリエンテーションを実施

7月26日、海外に留学予定のある学生および関係教職員に向けた「海外危機管理オリエンテーション」を実施し、34名が参加しました。

オリエンテーションでは、本学が今年度新たに導入した危機管理サービスを運営する日本エマージェンシーアシスタンス(株)の江見担当部長を講師に迎え、現在の海外の治安情勢や、海外に滞在する際の留意点などについて、具体例を交えた説明が行われました。

本学では学生の海外留学を促進するにあたり、安全確保のための対策・意識啓発に今後も継続して取り組んでいく予定です。





世界中の人々の
健康な未来を支えます

KMバイオロジクス株式会社
信頼性保証本部 薬事部 薬事管理課

山口 結莉さん

総合管理学部 2016年(平成28年)卒業

今の仕事内容

医薬品メーカーとして変わらない使命～

入社して3年半の間に、KMバイオロジクス株式会社(KMバイオロジクス)は、一般財団法人化学及血清療法研究所(化血研)の主要事業を承継し、明治グループの一員として新たな一歩を踏み出しました。この間、膨大な調査資料の取りまとめや、化血研からKMバイオロジクスへの事業譲渡に向けた対応など、「非常事態」との言い方が正しいかわかりませんが、通常業務とは違うもののほうが多かったように思います。大変貴重な経験でした。

現在私は、信頼性保証本部薬事部薬事管理課という部署で、薬事申請業務、業許可申請業務、当局との相談業務に従事しています。「非常事態」の際の、薬事対応にも多く携わりました。勿論、会

社の先輩方もこのような状況は経験したことがなく、決して簡単にはいかないものばかりでしたが、会社として信頼されるために、やるべきこと・誠意は何なのか、一番大切なものは何なのか、本当に色々見つめ直し、考えさせられる時間でした。

世界には、難病・希少疾病と闘う人々がたくさんいます。KMバイオロジクスが製造販売するワクチン・血漿分画製剤がなければ生きることが難しい方もいます。

ワクチンがあれば病気を予防することができます。「世界の人々が安心して使える医薬品を安定的に供給すること」これが私たちの変わらない使命です。

後進に伝えたいこと

一日一日を大切に今しか出来ない経験を！～

KMバイオロジクスはバイオ医薬品に携わる会社ですので、総合管理学部で学んだ「知識」を活かす場面は、正直ほとんどありません！しかし、職場には、困ったときに手を差し伸べてくださる心強い先輩方がいます。また、大学時代での「経験」が、思わぬところで背中を押してくれます。私は好奇心旺盛で、大学時代には、海外短期留学、議員インターンシップ、学園祭実行委員、ボランティ

ア活動、アルバイトなど色々と経験してきました。知らない分野に興味をもつこと、チームで何かを成し遂げた経験、感謝の気持ち、これが現在の業務にも繋がっていると思います。長いようで本当にあつという間の学生生活です。周りの方への感謝を忘れず、一日一日を大切に今しか出来ない経験を重ねてください。実り多き学生生活になりますように祈っております。

大学の動き

環境共生学研究科 越河一樹さんが「日本森林学会会長賞」を受賞しました

本学環境共生学研究科博士前期課程1年 越河一樹さん(資源循環化学研究室)が、第29回学生森林技術研究論文コンテスト(主催:日本森林技術協会)において、日本森林学会会長賞を受賞しました。

今回の受賞論文「地上レーザスキャナのための樹高推定の理論の構築」では、地上レーザスキャナを用いた森林調査において樹高が過小評価される問題を克服しうる、画期的な樹高推定の理論を世界に先駆けて構築し、その妥当性を実証したものです。

<受賞にあたってのコメント>

このたびは、日本森林学会会長賞という名誉ある賞をいただき、とても嬉しく感じております。このような賞をいただけたのは、卒業論文作成時の指導教員であった井上昭夫教授(現:近畿大学教授)をはじめ、環境資源学科の先生方による熱心なご指導のお陰と感じております。今回の受賞を励みに、林業・林産業の発展に貢献しうる森林技術者となれるよう、これまで以上に勉学に励んで参ります。



軟式野球部 緒方空澄さん 日本代表選出！！

軟式野球部員 緒方空澄さん(文学部2年)が全日本大学軟式野球2019日本代表に選出されました。緒方さんは本学軟式野球部のエースで、8月に開催された全日本大学軟式野球選手権大会にも出場し、活躍しました。

日本代表は、全日本大学軟式野球連盟に所属する253チームの中から、24名しか選ばれない狭き門です。

12月3～10日に Guam で開催される国際親善試合での活躍が期待されています。



JICA(青年海外協力隊)事業説明会を行いました

8月5日にLLCにて、JICAセミナー(青年海外協力隊事業説明会)を実施し、学部生を中心に、15名の学生・教職員が参加しました。

JICA青年海外協力隊事務局から概要説明の後、本学OGで東ティモール共和国に派遣された赤星亜朱香さんから説明がありました。栄養士として、栄養指導にあたったことや、現地での滞在、住居などの安全対策といったことを、写真や体験談を交えてお話いただき、学生たちにとっては貴重な機会となりました。



2019年たべラボ活動開始！

食育推進室では、学生自身の食生活・生活習慣のスキルアップと学内外への食育を実施する学生グループ「たべラボ(table laboratory:食卓研究会の略称)」活動を、毎週水曜日のランチタイムに行っています。2年目となる今年は、「食生活改善チャレンジ」から始まり、東区保健子ども課による「10分でできる簡単料理教室」や、JA熊本経済連による「おいしくまもと茶の入れ方講座」、味の素株式会社による「「勝ち飯®」試食会」など、様々な体験を積みました。後期には、成長したたべラボメンバーが考えた食育の日メニューが登場します。お楽しみに！



熊本県立大学で 数理社会学会大会が開催されました

8月30～31日の2日間、本学の講義棟2号館と総合管理学部棟などを会場として、第68回数理社会学会大会(大会委員長:飯島賢志総合管理学部准教授)が開催されました。

この学会は、数理モデルによって社会を捉えたり、一般的にも知られるようになった社会の格差の問題などを扱ってきた学会で、日本における代表的な調査研究を牽引するメンバーが多く所属しています。2日間で100人ほどの参加があり、活発な議論が繰り広げられました。

熊本県立大学公開講演会 「朝食のススメ&「勝ち飯®」セミナー」開催

7月23日に、味の素株式会社から講師をお招きし、「朝食のススメ&「勝ち飯®」セミナー」を開催しました。本学食育推進室、本田特任講師から、本学の食生活調査結果とたべラボ活動の報告の後、味の素株式会社、萱沼公江氏から、朝食摂取の重要性や、トップアスリートを支えてきた栄養プログラム「勝ち飯®」について等、生活に役立つ情報を講演いただきました。参加者からは、「とても参考になりました。また開いてください。」や「一人前「勝ち飯®」鍋を早速明日から実践したく思います。」といった感想が寄せられました。

五百旗頭真特別栄誉教授の 特別講演会を開催しました

4月15日大ホールにおいて、昨年3月まで本学の理事長でもあった五百旗頭真特別栄誉教授をお招きし、『平成から令和へー三重苦の中のやさしさ』をテーマに、総合管理学部1年生向けの「政治学概論」講義にてお話を頂きました。

幕末から明治、大正、昭和、平成までの歴史を、日本と諸外国の関係について語られ、最後に「令和の時代は危険もあるが期待もある、ぜひ頑張っていたきたい」と締めくくられました。



活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



写真:ワールドキャンパスの学生との交流

箏曲部

箏曲部 部長 山本茜(環境共生学部4年)

初心者でも簡単に弾けるようになります

箏曲部(そうきょくぶ)は創部1年ほどのできたばかりのサークルです。現在、3年生5名、2年生3名、1年生3名の計11名のメンバーで日々練習に励んでいます。普段の練習は週に1回行っており、曜日や時間帯に関しては部員同士で話し合い、できる限り多くの部員が参加できるように、授業の時間割が変わる半年ごとで調整しています。2019年度前期は水曜日の5限終了後18時頃から1時間程度練習していました。練習には外部の先生がお越しになり、基本から応用面まで指導していただいています。そのため、初心者の部員やブランクがある部員も安心して練習に参加できています。週1と活動日が少ないため、ほかのサークルとの兼部もしやすいことも箏曲部の魅力の一つです。

日々の練習以外にも、入学式にエントランスで演奏をしたり、交換留学生との交流を目的に演奏を披露したり、外部の先生から依頼された演奏会などに助っ人として参加させていただいたり、活動を行っています。練習した成果を発揮できる場があると練習にも精がでるので、こういった成果を披露できる場をもっと増やしたいと考えています。また、足元もないため、活動内容がまだまだ手探り状態で、常に部員とやりたいことを話し合いながら運営しています。そのため、箏の練習に関わること以外にも、歓迎会などの楽しいイベントなど、部員の意見があがったものは積極的に取り入れています。

「箏」と聞くと、すぐにはイメージできない人も多いと思います。しかし実際にやってみると普通の楽器よりも簡単に弾けるようになります。それは、箏には13本しか弦がないことや、楽譜が音符ではなく漢数字で書かれているため、音符が読めない人でもすぐに理解することができるからです。例えば、楽譜に「一」と書かれていれば、13本並んだ弦の1番目を弾けばいいだけです。そのため、初心者の方に体験してもらった際も20分もあれば簡単な曲は弾けるようになります。箏の演奏はパートを分けて合奏したり、三味線や尺八などの他の和楽器ともコラボして演奏した

りもするため、にぎやかでとても楽しいです。和楽器に触れる機会はあまりないと思うので、興味がある方はぜひ見学に来てください。



失敗から学ぶユーザインタフェース 世界はBADUIであふれている

中村聡史 著

出版社：技術評論社 本体価格：2,980円（税込み3,278円）
ASIN：B018JVUW2W

何だか使いにくい？その原因はBADUI

私たちは日常生活において、ユーザインタフェース（UI）を介して様々なシステムを利用します。UIによる情報表示やボタン操作は、しばしば誤操作したり、意図しない結果となったり、多くの失敗を引き起こすことがあります。このような問題は、人間の視覚特性とUIの見た目や仕組みが関係しています。自動販売機やスマートフォンのアプリ、ウェブサイトに至るまで、毎日複数のシステムとやり取りする際の小さな失敗の積み重ねは、本来のシステムの良さを損ない、私たちの時間や労力を削いでしまうことにも繋がります。

本書は、BADUIの事例を複数紹介しており、普段の生活でも直面するような身近なデザインの失敗例から、BADUIとなり得る原因を説明しています。個人でも情報発信やものづくりが一般化の中で、その方法や仕組みで人々に正しく情報を提示できているか、または、システムを使ってもらっているかについて、客観的に考えるきっかけとなる一冊です。



総合管理学部 准教授
石橋 賢

人事情報



名誉教授の称号授与

＜令和元年（2019年）年8月5日授与＞

元総合管理学部教授
専門分野：看護制度・政策

荒木 紀代子氏

熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

基金創設（平成21年9月）以来の寄附金総額は、
125,606,481円となりました。
（※受取利息は含まない。）

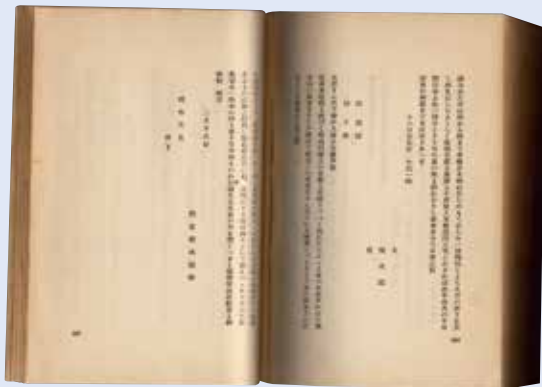
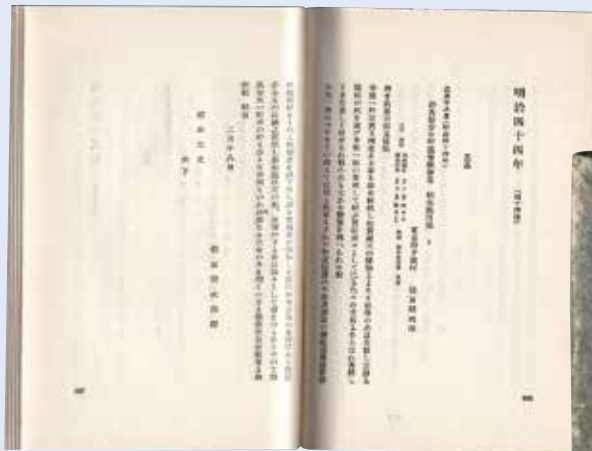
未来基金寄附者御芳名（H30年度実績）

個人：10件、法人・団体等：3件、
古本募金：15件（敬称略、50音順）

- 500万円 西部電気工業株式会社
- 200万円 紫苑会
- 50万円 一般財団法人未来会
- 2万円 吉丸 良治
- お名前のみ 荒木 紀代子、黒木 誉之、陣内 ヒロミ
田代 裕信、Hoang Thi Van Ann、安浪 小夜子
- 古本募金 青木 朋子、金田 裕美
クリフォードチャンス法律事務所、花村 陽子
吉村 信明(2件)、米村 友子
古本回収ボックス(4件)

※お名前の掲載を希望されなかった方 個人3名、古本募金4名

引き続き皆様からの御支援
御協力をお願い申し上げます



徳富健次郎『書翰十年』初版

昭和十年 岩波書店刊 徳富愛子編

蘆花全集刊行後、全集に漏れた書簡を編集したものだ。

本書そのものは、珍書、希書には当たらないが、大逆事件（明治 43-44 年）をめぐる発言が、当時であっても検閲の対象となっていたことを示す、生々しい痕跡を残している点で貴重。本学

には同じ版の本を三冊蔵するが、一冊は検閲をくぐり抜けた完全版、一冊は問題箇所（四九一～四九二頁、九六五～九六六頁）を缺で切り取った痕があるもの、一冊は当該の四頁を抜き去って製本したものである。

解説：文学部日本語日本文学科 教授 鈴木 元

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
 いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
 〒 862-8502（住所記載不要）
 熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
 FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒 862-8502 熊本市東区月出 3 丁目 1 番 100 号
 TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>